特集

大学発ICTベンチャー

編集にあたって

中田眞城子 | mplusplus（株）

20年前，情報処理分野の研究者は，ご自身の手がけている研究が社会に直結し，未来を見越した技術だと思いながらも出口を掴めないまま頑張っておられたように思う．ICTは起業しやすいとはいえ，実行するには社会的な仕組みが整っていなかった．あるいはようやく大学内にVBL（Venture Business Laboratory）が設置されるなど，少しずつ整えられ始めたばかりだった．

年月を経て，現在の状況はというと，実社会で活用可能な応用分野の研究が当時よりはるかに多くなっていると思う．つまり，研究成果でお金を稼げる可能性を大いに感じられるようになった．アメリカなどと比べるとまだまだ少ないとはいえ，実際に大学発ベンチャーは増加しており，それは国の考える方向性とも合致している．研究の多くは税金で賄っているのだから，社会還元できることは喜ばしい．また研究に従事する学生のやる気も出るだろう．

そう思う一方で，出口がはっきりと見えるが故に，基礎研究や理論などの一見社会にどう役に立っているのか見えにくい研究に対して評価がされにくくなったのではないだろうか．

これは，情報処理の分野だけの傾向ではない．ノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典氏が「このままでは日本の基礎科学が立ちゆかなくなる」と憂える発言を何度もしておられたことが印象深く思い出される．

そもそも研究の本質は分からないこと，未知のものを解き明かすことであって，先に出口があるというのはなんと窮屈なことだろうかとも思う．企業が行うプロジェクト開発に近い．

これは日本に限ったことなのか，あるいは海外でもその傾向があるのかを私ははっきりとは分かっていない．もし，日本特有の顕著な傾向であるとするならば，国際的な場面での日本の居場所はなくなってしまうだろう．

現在の私は，大学発ベンチャーに身を置いている．研究が研究で終わらず，社会に還元されることでどんどんブラッシュアップできていること，さらに利

用者の反応がダイレクトに分かるので新たなアイディアが浮かびやすいこと，組織が小さいので思いついたら即行動に移せることなど，環境としては素晴らしいと日々感じているので，研究者にはぜひベンチャーを志してほしいと思っている．

とはいえ，研究する前に大学発ベンチャーを立ち上げられそうな研究に絞るというのも本末転倒な話であるし，基礎と応用は表裏一体であるから，出会えた研究が基礎分野であるなら，深く探求していただきたい．たとえそれが地味な研究であっても不自由なく続けることのできる資金と環境が担保されることは，ひいては大学発ベンチャーが発展することに繋がるのだと思う．

特集全体のことをお伝えすると，知識としての章と明日から大学発ベンチャーを立ち上げようと思っている方に役立つ章，そして現にベンチャーを立ち上げた方に経験談を読みやすいようコラムにして綴ってもらった．

順番に読む必要はないので，私が考えたタイプ別おすすめを参考としていただければと思う．

（2018 年 3 月 29 日）

▶基本を知りたい方に……p.508
1. 大学発 ICT ベンチャーの現状と大学発ベンチャーの課題

▶歴史を知りたい方に……p.514
2. 人間の外化と社会経済システム
—戦略経営とベンチャー経営の時代—

▶海外事情を知りたい方に……p.518
3. 日米大学発ベンチャー比較論
—なぜ日本では Mark Zuckerberg や Bill Gates が生まれないのか—

▶企業の上層部の方に……p.523
4. 大学発ベンチャーの挑戦

▶起業を志す方に……p.527
5. 大学発ベンチャーを始める前に

▶起業を考えている先生方に……p.531
6. 大学発ベンチャーことはじめ

▶起業を考えている学生に……p.534
7. 学生ベンチャーとして
—ライフスタイルとしての起業のすすめ—

▶とにかく元気をもらいたい方に……p.536
8. ベンチャーに高揚感を求めて
—知られざる大学発ベンチャー創業の効用と，研究活動との類似性—

▶すべての学生に……p.538
9. 学生起業と企業就職を経験して

▶最近起業した方に……p.540
10. 手書き文字認識の可能性にかけた挑戦

▶続けようか悩んでいる方に……p.542
11. 社長であり続けること
—大学発ベンチャーの社長，13 年続けて得たもの—